

令和5年度 読書活動推進校中間報告書

| | | | | | | |
|------------------|--|-----|-----|-----|--------|-----|
| 学校名 | 朝来市立朝来中学校 | | | | | |
| 校長名 | 小西 浩司 | | | | | |
| 所在地 (TEL・FAX) | 兵庫県朝来市新井9番地 TEL (079) 677-0527 FAX (079) 670-4820 | | | | | |
| 学年別 生徒数 | | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 特別支援学級 | 計 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 生徒数 | 43 | 37 | 41 | 6 | 127 |

令和5年5月1日現在の生徒数を記入

1 研究主題

読書の楽しさを感じ、広い視野をもって深く考える力を育む読書活動

～ あさご森の図書館を中核とした校区小中学校・保護者・地域との連携 ～

2 研究における推進体制の概要

(1) 校内読書活動推進委員会

管理職・読書活動推進員・研修担当で構成し、研究の推進計画の立案や具体的な取組方法について協議検討を行った。

(2) 校区読書担当者会

中学校管理職と中学校読書活動推進員、校区の2つの小学校から読書担当者と地域の「あさご森の図書館」職員で構成し、あさご森の図書館職員より専門的な助言等を頂く中で、読書アンケート内容の検討や分析、小中連携の取組などについて協議検討を行った。

3 研究実施日程

- 5月24日(水) ○令和5.6年度読書活動推進事業 第1回連絡協議会(神戸市教育会館)
- 6月2日(金) ○第1回朝来中学校区読書担当者会(あさご森の図書館)
 - ・事業計画内容及びアンケート内容について
- 6月5日(月)～○アンケート実施(児童生徒 6/8～保護者 6/12～校区教職員)
- 6月21日(水) ○第2回朝来中学校区読書担当者会
 - ・アンケート結果の分析及び結果の周知方法について
- 6月26日(月) ○第1回校内読書活動推進委員会
 - ・アンケート結果から効果的な事業計画について
- 6月29日(木) ○あさご森の図書館職員による中学校図書室運営及び環境整備等について助言
- 6月30日(金) ○校区保護者にアンケート結果及び分析と今後の事業計画について周知
- 7月3日(月)～○神戸新聞の読書コーナー記事及び中学校教職員のお薦め本をディスプレイ表示
- 7月10日(月) ○生徒玄関に図書委員作成の「おすすめ本」について掲示
- 8月18日(金) ○初任者研修社会体験研修(あさご森の図書 朝来中2名の初任者が研修)
 - ・読み聞かせ、ポップ作成、市内中学校図書室見学、図書室改善計画立案など
- 8月24日(木) ○職員研修

- ・全職員で「あさご森の図書館」に出向き、図書館司書より説明
- ・中学校図書室の様様替え
- 9月13日(水) ○「あさご森の図書館」の下校途中生徒利用開始
- 9月20日(水) ○2年生生徒がビブリオバトル本の選定(あさご森の図書館)
- 9月27日(木) ○第2回校内読書活動推進委員会
 - ・11月読書月間の具体的な取組について
- 10月5日(木) ○文化祭意見発表で1年生女子生徒が「本と私」という内容で発表
 - ・「あさご森の図書館」職員2名を招待し、意見発表を聴講
- 10月10日(火) ○保護者にお薦め本紹介について依頼文発送
 - 「あさご森の図書館」にお薦め本紹介についてのコーナーを設置
- 10月16日(月) ○総合的な学習の時間に全校生がお薦め本紹介をパワーポイントで作成
- 10月19日(木) ~○小学校へ届けるポップ作成を美術の時間等で1年生が作成
- 10月23日(月) ○保護者から生徒へのお薦め本紹介を生徒玄関に掲示
- 11月3日(金) ○あさご元気祭りのボランティアに参加した生徒が読み聞かせを実施
- 11月6日(月) ~○生徒が作成した「お薦め本紹介カード」を校内に掲示
- 11月7日(火) ○3年生が「あさご森の図書館」に出向き、読み聞かせについて講習
- 11月15日(水) ○校区小学校に中学校3年生が出向き、小学校1・2年生に読み聞かせ実施
 - ・読み聞かせ後に、中学校1年生が作成したポップを手渡し
 - ・読み聞かせの前後の休み時間に、小学校1・2年生と一緒に遊ぶなどして交流(市広報及び神戸新聞の取材 11/25 神戸新聞掲載)
- 11月20日(水) ○読書活動推進事業学校訪問で研究内容について報告
 - 2年A組で国語「ビブリオバトル」の研究授業を実施
 - ・校区小学校及びあさご森の図書館職員が研究授業参観
- 11月22日(水) ○校内研修で11月20日(月)に行った校内研究授業の事後研修を実施
- 11月24日(金) ~○あさご森の図書館に朝来中学校生徒及び保護者お薦め本コーナー設置
- 12月1日(金) ~○あさご森の図書館で本校職員及び保護者が記入したギフトツリー掲示
- 1月10日(水) ○第3回朝来中学校区読書担当者会
 - ・第2回アンケート及び今後の事業について
- 2月5日(月) ~○第2回読書アンケート(児童生徒・保護者・校区教職員)
- 2月7日(水) ○令和5.6年度読書活動推進事業 第2回連絡協議会(神戸市教育会館)
- 2月28日(水) ○第3回校内読書活動推進委員会
 - ・本年度のまとめ及び次年度の事業計画立案
- 3月5日(火) ○第4回朝来中学校区読書担当者会
 - ・第2回アンケート結果の分析及び結果の周知方法について析

4 令和5年度の取組概要

- (1) 各教科等における様々な文章や資料を読んだり調べたりするなど授業と読書活動の連動のあり方
 - ・各教科等で学習した学習内容を図書室の図鑑や写真集などの資料を用いて授業で紹介した。
- (2) 学校図書館を活用した言語活動のあり方
 - ・学校図書館の本を使ったビブリオバトルの授業を行った。



(3) 豊かな心をはぐくむ読書活動のあり方

- ・文化祭意見発表のテーマの一つに読書活動を取り上げ、読書の在り方について全校生が深く考える機会を設けた。



- ・生徒会が毎月実施している生徒間で感謝を伝える「ありがとうカード」を11月は、読書月間と関連させ、「お薦め本カード」として生徒が作成し、生徒玄関に掲示した。



(4) 家庭と連携した読書習慣の育成

- ・読書実態アンケートを保護者にも実施し、保護者と連携した事業を推進した。
- ・生徒から保護者、保護者から生徒へお薦めの本を紹介する機会を設けた。



- ・読書活動推進事業の趣旨や取組内容について学校便りやHP、PTA 会報で知らせた。

(5) 中学校区内の小学校と連携した読書活動のあり方（必須）

- ・読書アンケートを児童生徒及び教職員に実施し、小中で実態把握や課題について共有した。
- ・中学校で研究授業を実施し、校区小学校及びあさご森の図書館職員が参観した。

- ・中学生がポップを作成し、小学校に届けた。
- ・中学生による小学生低学年への読み聞かせを行った。



(6) 地域全体による効果的な読書活動のあり方

- ・あさご森の図書館に「ギフトツリ」と題した掲示物を、小学生・中学生・保護者・地域住民等が協同で作成し、利用者の交流を図った。

(7) ボランティア等との連携による図書館運営ならびに読書活動推進のあり方

- ・あさご森の図書館の職員に学校の図書室の運営方法や施設、蔵書等について助言等を頂いた。



(8) インターネット等情報メディアや1人1台端末等 ICT を活用した読書活動のあり方

- ・読書感想文作成前に読みたい本をタブレットで検索した。

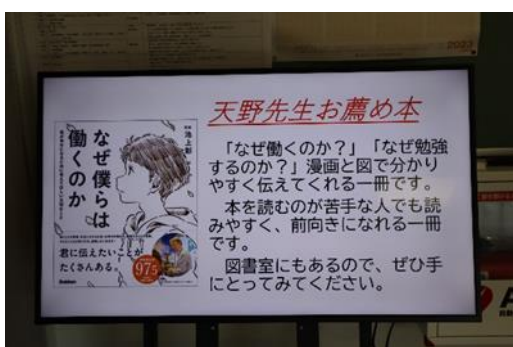
(9) 園児や低学年児童等への読み聞かせなど、読書活動における異年齢交流のあり方

- ・あさご元気まつりのボランティアで読み聞かせ等の異年齢交流を図った。



(10) 推進教員（司書教諭等）を中心とした学校図書館の活性化

- ・学校の先生同士、先生から児童生徒へ自分のお薦めの本を紹介する機会を設けた。
- ・生徒玄関に設置しているディスプレイに教職員から生徒向へお薦め本の紹介を定期的に行った。



5 研究の成果

本年度は6月と2月にアンケートを2回実施した。2回のアンケートで同じ質問内容については、児童生徒及び保護者において大きな変化は見られなかったが、2回目のアンケートでは児童生徒に、読書による価値観の変化や思考面の変化について質問した。読書によって新たな価値観に出会った児童生徒が約6割。新たな思考を感じとれた児童生徒が約5割あった。このことから半数以上の児童生徒が読書活動によって知的活動が増進され、人間形成や情操を養うことができた。

また、児童生徒に本年度の取組で印象に残っている活動について質問したところ「読み聞かせ」「お薦め本紹介」「ポップ作成」などに多くの児童生徒が次年度も取り組んでみたいと回答している。これは、単に「本を読む」という活動にとどまらず、本を通して人との交流が図れた成果でもある。次年度も児童生徒が望む活動を継続して行うことで、より本への興味関心が高まることが期待される。

教職員のアンケート結果は、読書活動推進事業を通して、児童生徒の本への興味関心が高まったことや児童生徒と読書に関する会話が増えるなど、本事業に肯定的な回答が多くあった。何よりも教職員自身の読書量が増えており、今後さらに読書の良さについて教師発信で生徒に伝わっていく可能性を秘めている。

6 研究の課題

課題は、不読率の改善である。2回目のアンケートでは1回目と比較して児童生徒の不読率や読書時間の減少が学校でも家庭でも高くなっている。保護者においては1回目のアンケートで「お子さんが読書する時間が増えて欲しいと思いますか」の質問を2回目のアンケートでは「お子さんが読書する時間は増えたと思いますか」に変えて質問した。その結果、保護者は読書して欲しいと願っていても、児童生徒の読書する時間が増えていない厳しい結果であった。この結果は保護者の期待の高さの現われでもあり、保護者の期待と児童生徒の読書量増加が比例に転じる取組を求められている。さらに、保護者の記述アンケートの中には「大人が本を読む機会が減った」「大人も携帯を触って過ごしている」など、読書に親しみにくい環境を嘆いている記述も多く見られた。このような逆風の中で、不読率を改善に導くのは容易ではない。

幸い児童生徒は読書によって新しい価値観や思考力に触れる楽しさを感じ取っている。また「読み聞かせ」や「ポップ作成」などの活動にも意欲的である。指導に当たる教職員も読書活動に前向きである。読書活動推進事業を行っていく上で学校現場の環境は良好と言える。まずは、児童生徒の読書量を可視化する取組が必要と考える。読書量の増減を個人の感覚にたよるのではなく、生徒一人一人や学級、学年といった単位で可視化し、記録や掲示をしていく。場合によっては競う場面も設定しながら不読率の改善につなげていきたい。

最終目標は、児童生徒が自立した読み手となり、生涯にわたって読書に親しみ、豊かな人生を送ることである。そのためには、学校以外で読書に親しむ見本となる人や環境が必要である。児童生徒にとって見本となるのは保護者である。引き続き、保護者にお薦め本の紹介などを行い、保護者にも読書活動に興味をもって頂く。さらに、朝来中学校区として読書デーの設定を行うなど家庭で読書に親しむきっかけを作っていきたい。あさご森の図書館は読書に親しむ環境が整っている。しかしながら利用率は微増にとどまっている。現在は水曜日をあさご森の図書館利用推奨日と設定しているが、水曜日に加えて部活動がない定期考査前の利用なども可能にすることで、読書に親しむ環境を整え、児童生徒が自立した読み手となる足がかりとしていきたい。